

「どんな気持ちで弾いたの」

私はただ指を動かしているだけだった。だから、ピアノの先生の質問にどう答えればいいのかわからなかった。そのまま沈黙が二十分くらい続いた。

私が三歳からピアノを始めたのは、母がやっていたことがきっかけだ。小さい頃は毎日、母が私の隣に座って、教えてくれていた。コンクールでは金賞をとるなど、よい結果を残していた。小さい頃の私は、母に教えられるままに弾いていたし、それでよいと思っていた。しかし、大きくなるにつれて私の中でもっとこんな風に弾きたいという思いが出てきていた。そのことで母とけんかになることも多くあった。ある日の練習で母とけんかをして

「もう一人で練習するからやめて」

と言い、それから一人で練習するようになった。それからコンクールでは結果が出なくなるとても悔しかった。なによりも母に教えてもらわないと結果が出ないことが証明されたようで悲しかった。

結果の出ないコンクールは三年間続いた。コンクールではいつも「教科書通りの演奏」「どんな気持ちで弾いているの」と言われた。そんな風に言われても、自分ではどうすればよいのかわからなかった。でも、上手ではないといわれていることは分かった。母に教えてもらわないとうまくなれないのかもしれない。結果を出すためには前のように弾かないといけない。そんな風に考えていた。それでも、母と練習を再開する気にはなれなかった。

中学一年生の冬。演奏を聞いてもらった先生に言われた。「どんな気持ちで弾いているの」

どう答えればいいのかわからなかったけど、一生懸命考えた。先生も私の言葉をまっすぐに聞いてくれた。とにかく短調が特徴的な曲だ。何とか言葉を絞り出した。

「暗くて悲しい、切ない気持ちです」

「なら、その気持ちを演奏してみて」

暗くて悲しい、切ない気持ち。私は結果の出なかったコンクールや母とのけんかを思い出していた。そのイメージをこめて曲を演奏した。

「めっちゃいいじゃん」

先生がほめてくれた。曲に入り込むってこういうことだったんだ。そこから私の演奏は上達していった。多くの人に褒められるようになった。自分の演奏に自信がもてるようになった。

今思えば、なにも考えずに母に教えてもらっていたときから何も進歩していなかった。結果ばかりを追い求めていた。私は変わろうとしなかった。母が変わってほしいと思っていた。自分で考えて挑戦しようとできていなかった。結果は出ないかもしれないけど、不安に思うことがあっても挑戦しなければ変化することはできないと感じた。不安でも今までの自分とは違うことをやってみなければいけない。変化には挑戦が必要だ。

中学二年生の今、私の十一年目の挑戦がスタートした。正直挑戦したくないことのほうが多かったけど、とりあえずやってみることにした。そうしたら、キュパティーン使節団員になり、ピアノのコンクールの本選も突破した。自分でも考えていなかったほどに結果が出て、自分の意志で挑戦することの大切さを感じた。挑戦の中でいちばん驚いたものは、やはりピアノコンクールの本選突破だ。母と練習していたときにもできなかったことが、自分一人でも達成できた喜びは大きかった。それと同時に全てがうまくいくことに戸惑いを感じた。正直演奏後の手ごたえはあまり感じなかった。練習にも集中できていたとは感じなかった。そんな私が本選を突破して全

国大会に進んでもよいのだろうかという思いがあった。そんな気持ちで臨んだからか、全国大会では賞をとることはかなわなかった。結果にも納得していたから悔しいとも思わなかった。結果のために多くの努力を重ねた人たちと同じ場所で戦うことに恥ずかしさすら感じた。挑戦のために努力をどれだけ重ねられるかの差が今回の結果なのだろうと思った。

努力しても結果が出ないときはたくさんある。その中で努力を続けていくことは難しい。積み重ねていく段階、挑戦の段階には必ず大きな壁がある。私も挑戦をするという壁は越えたが、その先にもまた新たな壁ができた。新たな壁を越えられるように繰り返し努力する。そんな挑戦することはかっこいいことだと感じる。挑戦することができなかった私の空白の四年間の失敗は、誰かに頼れなかったことだ。練習の仕方がわからなかったとき、意地を張ってわかるふりをした。もしそのとき素直に母に頼っていたら自分を観客的に見ることができたかもしれない。もっと早く挑戦しようと思えていたかもしれない。一人で考えてわからないときは、誰かに聞かないと変化することはできないと思う。今の自分と何も変化しないのは、何にも挑戦できていないことと変わらない。自分を客観的に見るために、人に教えてもらわないと結果は出ないと思う。意地を張って母に頼らず、結果が出なかった時期があるからこそ、私は周りの人のアドバイスを素直に受け入れて次の挑戦の準備を進めている。

これからの人生、挑戦して失敗してをくり返して少しずつ成功を積み重ねていくと思う。その挑戦の過程には悔しさや、悲しさを感じたり、どうすればよいかわからなくなったりつらくなったりすることも多いかもしれない。それでも私は挑戦し続ける人になりたい。たくさんさんの失敗と成功を続けて変化していく自分を楽しみたい。

変化するには挑戦が必要だ。これからも、自分が変化していくために、そんな自分を楽しむために、挑戦を続けていきたい。